

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500995		
法人名	有限会社 泰葉		
事業所名	グループホーム泰葉		
所在地	長崎県北松浦郡江迎町北平免6-1		
自己評価作成日	平成22年2月15日	評価結果市町村受理日	平成22年6月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成 22年 3月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は利用者が家庭的な環境の中で過ごせるよう支援しております。また遠方のご家族にとっても安心されるよう、ホーム便りを定期的に発行しコミュニケーションを図っております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは住宅地の中にあり、すぐ近くには利用者の散歩コースとなる遊歩道、公園があるなど良好な環境に位置している。設立から6年目を迎え、ホーム長は地域の様々な会合に出席し関係を構築しており、地域との連携も出来ている。また、家族との信頼関係は家族アンケートの回答の多さから計り知れる。介護を基本とした日常生活を営んでもらうという考えから、廊下での歩行訓練や体操など利用者の身体能力維持に努める支援は優れた点である。更に開所当初からの職員が多く、離職が少ないことから働き甲斐のある職場であることが推察され、家族や利用者にとって安心できる居場所となっていることは事業所の最も優れている点であるといえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフは常に理念を念頭におき質の向上・サービスに取り組んでいる。また、利用者が家庭的な雰囲気の中で穏やかに過ごせるよう一人ひとりの機能を活かした支援を行っている。	「利用者に住みなれた地域の中で家庭的な生活ができるような環境とケアを提供する」という理念を基に、家庭生活のように時間を決めず、ゆっくりと利用者一人ひとりに合わせた支援をしており、職員は理念を共有し、日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にホーム便りを配布したり、あいさつを交わすなど地域との交流を心がけ、協力関係を築いている。	自治会となる地区総会に入会している。例会には施設長が出席して地域との交流を図っており、毎月発行の「泰葉だより」を紹介し、地域の理解を得ている。自治会の回覧板で地域の情報が得られ、婦人会のフラダンスの慰問などがあるなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りでは地域の方々に生活状況を発信しているが直接的なかわりがない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご意見を頂き業務に活かしている。さらに、ミーティングを開きスタッフ共通の意思疎通を図っている。	運営推進会議は、規定のメンバーで開催しているが今年は1回に留まっている。会議では民生委員より見守りのための利用者の個人シートの作成などのアドバイスを得て、作成していることで事業所のサービス向上につながっている。	運営推進会議は参加メンバーで意見交換をすることで事業所のサービス向上につながるため年6回の開催を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者とは運営推進会議やホーム便り等を通じ連携をとりサービスの向上に取り組んでいる。連絡事項は毎月の名簿提出時に等に行っている。	町役場の担当者は運営推進会議に参加し、事業所の状況を理解している。事業所は毎月役場に向き利用者名簿提出の際に支援に関するアドバイスや講習会の案内などの情報を得て利用者の支援や職員のレベル向上に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯は玄関のみ施錠をしており身体拘束をしないケアに努めている。研修会や講習会には積極的に参加しミーティングを行う等スタッフの意識を深めている。	職員は身体、言葉による拘束を理解しており、拘束のないケアを実践している。玄関は日中鍵はかけていない。昨年、管理者が受講した有効だと実感した外部研修を今年は職員が受講する予定であり、利用者本位の支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員共通の意識のもとで虐待防止に万全の注意を払っている。		

グループホーム泰葉(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会・講習会等あれば積極的に参加し知識を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時の説明は十分に行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見交換の場を設け意見・要望があれば早期対応できるよう努めている。利用者・家族の意見が反映できるように対策を取り対応している。	家族の面会時にホーム長が声をかけ、会話する中で希望や要望を聞き取り把握している。ホーム長は職員に家族と接する大切さを話しており、職員も話す機会を見つけては話すよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングは定期的実施し、意見・情報を共有し、事業所の運営向上に反映させている。	毎日、昼に20分程度、ホーム長と職員で話し合っている。2ヶ月に一度は夕方から全員出席で職員会議を開き、ホーム長の考えを話し、職員との意見交換を行なっている。職員の提案で、足浴器具の購入や有給など反映した例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が各自役割分担があり働きやすい職場環境づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に応じ研修会・区集會に参加し質の向上・スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会を設置し意見交換・ホーム便りの交換・見学などの交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困り事や要望・精神状態などを考慮し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	積極的に会話の場を設けるなど信頼関係が出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員が本人・家族の立場に立って支援の仕方を検討しケアにあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と喜怒哀楽を共有し尊厳をもって支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力と共に利用者を支え合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に見学や面会に来れる雰囲気と環境づくりをしている。また、住み慣れた場所へ同行することもある。本人の生活暦などふまえて馴染みの人や場所との関わりが途絶えないよう支援している。	利用者の自宅の近所の方や友人が訪ねて来られたり、家族と一緒に敬老会に出るなど馴染みの人や場と交流している。その他にも家族とは法事、墓参り、冠婚葬祭、旅行など出かけており、職員はこれまでと変わらない関係継続を行なえるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立したり引きこもりにならないようレクリエーションへの参加を促したり利用者同士がより関係を築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の場合は主治医・ソーシャルワーカーと連携し本人・家族の意思に添えるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に添い少しでも近付けるよう、またより満足のいくよう努めている。利用者それぞれに合った支援を検討している。	入浴時など職員と利用者だけになる機会に、希望を聞き取っている。時には職員を替えて対応し、利用者の意向を検討している。献立や入浴の希望、興味のあるものなどを探すなど職員は利用者本位の支援となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	社協・家族などからの情報を得、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックをし変化があればその都度対応し情報の共有を怠らないよう取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを定期的に行い意見交換をし作成している。	利用開始時の介護計画書は利用者の日常の様子と会話から支援の方法を決め、利用開始から1ヶ月を目安に作成している。利用者一人ひとりの計画は職員間で共有され、見直しは3ヶ月と6ヶ月で行い、また入退院、急変時はその都度見直している。ただし、家族の意見、要望を聞く時期が遅いため計画に反映されていない。また、実施状況の記録がない。	家族の意見、要望は早い段階で聞き取り、計画に反映させることが望ましい。また、支援計画目標が日々実践されているか記録し、評価し次の計画を作成するよう検討に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りを欠かさず細かいことも記録に残し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じ柔軟に対応している。		

グループホーム泰葉(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察・消防・民生委員との協力体制ができており安全な生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を優先している。また、かかりつけ医変更の際は本人・家族に相談している。看護師常勤により信頼があり本人・家族が安心できるよう支援している。	利用者、家族の希望のかかりつけ医を継続している。通院介助は職員が行い、必要に応じてホーム長が付き添い医師とのコミュニケーションを図っている。夜間緊急時は協力機関医のほかに夜間対応機関で対応し利用者、家族の安心感に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関わりある看護職員とは情報交換などがあり協力関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と常に相談し家族や本人が安心できるよう円滑に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と相談し家族も含め職員全員が団結し関係者と共に状態の変化に備えている。急変に備え看護師にはオンコール対応とし医師とともに迅速に対応できるよう取り組んでいる。	「事業所で看取って欲しい」という家族の要望に応えるため、家族、職員、医師の連携で看取りを実施している。看護師と職員間のチームワークで職員の精神的不安を軽減する工夫を行っている。ただし、事業所の看取りの指針は文書化されておらず、職員研修も行われていない。	事業所の看取りに対する指針を文書化し、契約時に家族に説明するとともに同意を得ることが望まれる。また、職員の不安軽減のために研修を実施することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行い看護師を中心として応急手当などがスムーズに対応できるよう知識を深めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の誘導が迅速かつ安全に駆動できるよう訓練し地域との連携をとっている。緊急時の避難場所は地域の協力のもと確保できている。	スプリンクラーを設置している。年2回夜間想定で消防署立会いの避難訓練を実施している。地域との協力体制ができており緊急避難場所も確保している。避難経路は掲示しており、消火器の取り扱いの実演は利用者も一緒に行っている。ただし、居室の配置が複雑なため職員は誘導に不安がある。また、風水害を想定した訓練も行っていない。	利用者の居室の配置が複雑であるため、年2回の消防訓練では職員は利用者の避難誘導に不安がある。訓練回数を増やすなどの工夫が望まれる。また、風水害の訓練も近隣の福祉施設と合同で実施することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに尊敬の念を持って接しプライバシーにも配慮するなど最善の注意を払っている。特に声かけ・言葉使いに注意している(威圧感を与えない)。	職員は利用者に対して威圧感を与えない声かけと尊重、尊厳を重視した言葉づかいに心がけており、利用者と信頼関係が保たれるよう努めている。個人情報とは所定の場所に保管しており、職員には入社時に守秘義務の誓約書を取っている。ただし、個人情報取り扱いについての家族の同意書がない。	利用者の写真掲載、見守りのための個人確認シートの作成は、利用者のプライバシーに関する同意を得ることが重要である。個人情報取り扱いに関する同意書を作成し、同意を得ることが望まれる。また、利用者のトイレ介助について、十分に配慮することを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話を大切にし本人の思いが表現できるよう促すなどの支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員がゆとりある穏やかな気持ちで接することを心がけ利用者のペース・リズムに合わせた対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や髭剃り・整髪・マニキュア・お化粧品等で気分転換を図っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副菜などをいっしょに作ったり味付けをまかすなど時々希望の献立を提供している。これからも、能力に応じて手伝いが出来るよう楽しい食卓となるよう支援していきたい。	献立は当日の朝から利用者に希望を聞き、買い物に出かけており、産直の野菜は利用者も一緒に買っている。その日の体調で刻み食など対応している。旬の食材を使い、季節感のある食事を提供している。職員も利用者と一緒に会話しながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給はこまめにとり一人ひとりが食べやすいようキザミ・とろみ食など工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きを行い清潔を保持している。		

グループホーム泰葉(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎に促し誘導している。見守りながらいきすぎた介助とならないよう支援している。利用者をよく観察しその方のリズムに合わせ排泄がスムーズに出来るよう支援している。	日中は布パンツやリハビリパンツで過ごす利用者が多い。オムツは夜間のみ使用であるが、夜間もトイレ誘導の利用者もいる。退院後、リハビリパンツから布パンツになった例もあり、職員は排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維・乳製品の摂取をこまめな水分補給を行い全身運動を取り入れたり工夫して取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほとんど方が全介助が必要なので週2～3回と決めているが希望時には入浴できるよう支援している。また清拭などは毎日行っている。利用者が入浴したい時には出来るよう支援している。	基本は週2,3回であるが、希望があればいつでも入浴できる。脱衣室にはセラミックヒーターを設置し、気温差に配慮している。車椅子利用者の入浴も2人介助で行っており、入浴を楽しむ支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合ったリズムで安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が理解の下服薬管理・支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション・ドライブ・買い物に出かけるなど気分転換できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に数回はドライブ・散歩・食事会を催している。さらに、家族にも参加していただけるよう呼びかけに力を入れたい。	天気の良い日は事業所の前にある遊歩道を散歩したり、公園に行くなどしている。利用者によっては近くの整骨院の帰りに一人で散歩するなど、日常の外出支援を行っている。10日に一度は買い物に出かけており、利用者の楽しみとなっている。	



グループホーム泰葉(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物・娯楽など希望時には対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や代筆などしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔に家庭的で居心地よい空間・環境整備を心がけている。季節の花を飾ったり時々音楽をかけリラクゼーションを図るなどの工夫をしている。	リビングは広く、日差しもよく入り利用者は思い思いに過ごしている。台所で調理する音や香りは家庭的な雰囲気を感じさせる。職員が朝から掃除を行い、利用者も一緒に拭き掃除をするなど清潔な空間となるよう努めている。ただし、トイレの臭気が気になる。	共有空間のトイレは、使用後の臭気を除去する工夫が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを配置し皆で楽しめるようゲームや楽器・雑誌などを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や愛着のある物を持ち込んだり本人・家族の意見を取り入れ生活しやすい工夫をしている。また各居室にはたたみの間を完備している。ゆったりと気持ちよく過ごせるよう空間作りを工夫している。	家族に協力を得て、馴染みの家具や調度品を配置して、利用者の居心地のいい居室となっている。毎朝、掃除の時に換気を行い、天気の良い日は布団を干すなど清潔で快適な居室になるよう職員は支援している。ただし、家具に埃がある。	家具や調度品などの埃を払い、更に快適な居室となるよう期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで移動が安易なよう工夫しているがフローリングのため転倒等のリスクに備え見守りを徹底している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500995		
法人名	有限会社 泰葉		
事業所名	グループホーム泰葉 ユニットB		
所在地	長崎県北松浦郡江迎町北平免6-1		
自己評価作成日	平成22年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は利用者が家庭的な環境の中で過ごせるよう支援しております。 また遠方のご家族にとっても安心されるよう、ホーム便りを定期的に発行しコミュニケーションを図っております
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフは常に理念を念頭におき質の向上・サービスに取り組んでいる。また、利用者が家庭的な雰囲気の中で穏やかに過ごせるよう一人ひとりの機能を活かした支援を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にホーム便りを配布したり、あいさつを交わすなど地域との交流を心がけ、協力関係を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りでは地域の方々には生活状況を発信しているが直接的なかわりがない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご意見を頂き業務に活かしている。さらに、ミーティングを開きスタッフ共通の意思疎通を図っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者とは運営推進会議やホーム便り等を通じ連携をとりサービスの向上に取り組んでいる。連絡事項は毎月の名簿提出時に等に行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯は玄関のみ施錠をしており身体拘束をしないケアに努めている。研修会や講習会には積極的に参加しミーティングを行う等スタッフの意識を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員共通の意識のもとで虐待防止に万全の注意を払っている。		

グループホーム泰葉(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会・講習会等あれば積極的に参加し知識を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時の説明は十分に行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見交換の場を設け意見・要望があれば早期対応できるよう努めている。利用者・家族の意見が反映できるように対策を取り対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングは定期的を実施し、意見・情報を共有し、事業所の運営向上に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が各自役割分担があり働きやすい職場環境づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に応じ研修会・区集會に参加し質の向上・スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会を設置し意見交換・ホーム便りの交換・見学などの交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困り事や要望・精神状態などを考慮し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	積極的に会話の場を設けるなど信頼関係が出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員が本人・家族の立場に立って支援の仕方を検討しケアにあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と喜怒哀楽を共有し尊厳をもって支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力と共に利用者を支え合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に見学や面会に来れる雰囲気と環境づくりをしている。また、住み慣れた場所へ同行することもある。本人の生活暦などふまえ馴染みの人や場所との関わりが途絶えないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立したり引きこもりにならないようレクリエーションへの参加を促したり利用者同士がより関係を築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の場合は主治医・ソーシャルワーカーと連携し本人・家族の意思に添えるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に添い少しでも近付けるよう、またより満足のいくよう努めている。利用者それぞれに合った支援を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	社協・家族などからの情報を得、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックをし変化があればその都度対応し情報の共有を怠らないよう取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを定期的に行い意見交換をし作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りを欠かさず細かいことも記録に残し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じ柔軟に対応している。		

グループホーム泰葉(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察・消防・民生委員との協力体制ができており安全な生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を優先している。また、かかりつけ医変更の際は本人・家族に相談している。看護師常勤により信頼があり本人・家族が安心できるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関わりある看護職員とは情報交換などがあり協力関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と常に相談し家族や本人が安心できるよう円滑に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と相談し家族も含め職員全員が団結し関係者と共に状態の変化に備えている。急変に備え看護師にはオンコール対応とし医師とともに迅速に対応できるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行い看護師を中心として応急手当などがスムーズに対応できるよう知識を深めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の誘導が迅速かつ安全に駆動できるよう訓練し地域との連携をとっている。緊急時の避難場所は地域の協力のもと確保できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに尊敬の念を持って接しプライバシーにも配慮するなど最善の注意を払っている。特に声かけ・言葉使いに注意している(威圧感を与えない)。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話を大切にし本人の思いが表現できるよう促すなどの支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員がゆとりある穏やかな気持ちで接することを心がけ利用者のペース・リズムに合わせた対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や髭剃り・整髪・マニキュア・お化粧品等で気分転換を図っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副菜などをいっしょに作ったり味付けをまかすなど時々希望の献立を提供している。これからも、能力に応じて手伝いが出来るよう楽しい食卓となるよう支援していきたい。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給はこまめにとり一人ひとりが食べやすいようキザミ・とろみ食など工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きを行い清潔を保持している。		



グループホーム泰葉(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎に促し誘導している。見守りながらいきすぎた介助とならないよう支援している。利用者をよく観察しその方のリズムに合わせて排泄がスムーズに出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維・乳製品の摂取をこまめな水分補給を行い全身運動を取り入れたり工夫して取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほとんど方が全介助が必要なので週2～3回と決めているが希望時には入浴できるよう支援している。また清拭などは毎日行っている。利用者が入浴したい時には出来るよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合ったリズムで安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が理解の下服薬管理・支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション・ドライブ・買い物に出かけるなど気分転換できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に数回はドライブ・散歩・食事会を催している。さらに、家族にも参加していただけるよう呼びかけに力を入れたい。		

グループホーム泰葉(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物・娯楽など希望時には対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や代筆などしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔に家庭的で居心地よい空間・環境整備を心がけている。季節の花を飾ったり時々音楽をかけリラクゼーションを図るなどの工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを配置し皆で楽しめるようゲームや楽器・雑誌などを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や愛着のある物を持ち込んだり本人・家族の意見を取り入れ生活しやすい工夫をしている。また各居室にはたたみの間を完備している。ゆったりと気持ちよく過ごせるよう空間作りを工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで移動が安易なよう工夫しているがフローリングのため転倒等のリスクに備え見守りを徹底している		